

第6章

有価証券

～学習内容～

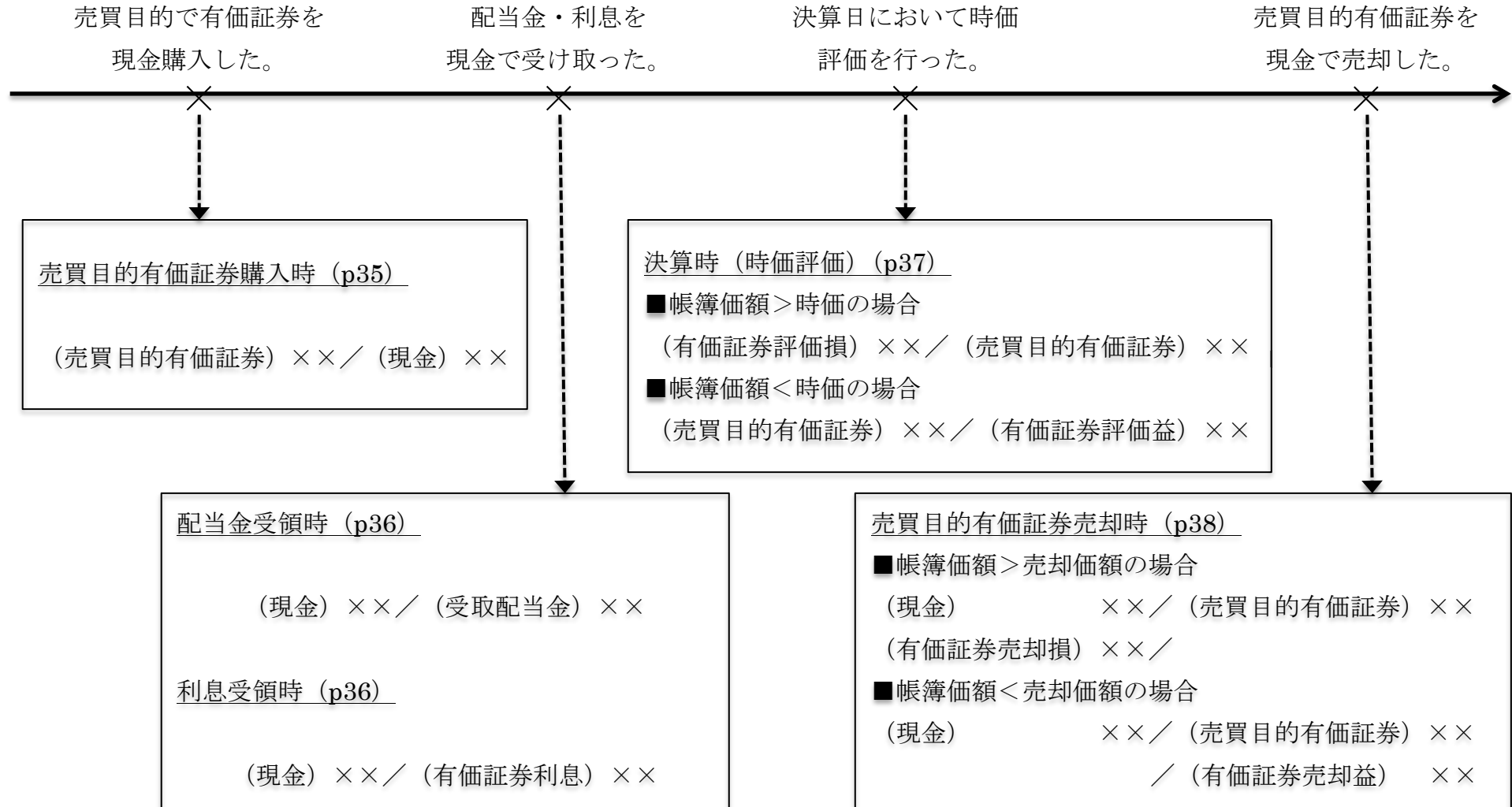
- ・ 売買目的有価証券
- ・ 配当金・利息
- ・ 評価替え

目的はただ1つ・・・
安く買って高く売る！



第6章 有価証券

1. 取引の流れ



2. 有価証券とは

株式会社が発行する「株式」や「社債」、国が発行する「国債」など、価値の有る証券のことを「有価証券」といいます。

有価証券は、その保有目的に応じて処理が決められていますが、3級では「**売買目的有価証券**」（売買目的で保有する有価証券）のみ学習します。

3. 売買目的有価証券購入時

売買目的で株式や「**公社債**^{※1}」等を購入した場合、購入にかかった価額をもって『**売買目的有価証券**』（資産）として処理します。

なお、購入にかかった価額を「**取得原価**」といい、株式や国債それ自体の価額（購入代価）のみならず、購入手数料など購入するためにかかった費用である**付随費用も含めて計算**します。

※1：社債や国債などをまとめて、公社債といいます。

【例6-1】

売買目的でS社株式10株を1株100円で購入し、代金は購入手数料100円とともに小切手を振り出して支払った。

勘定科目	金額	勘定科目	金額
売買目的有価証券	1,100	当座預金	1,100

4. 配当金・利息受領時

株式を保有していると、会社の利益の分配として配当金を受け取ることができます。

株主への配当が決まると、株主へ配当金領収証というものが送付され、株主はこれを金融機関へ持ち込むと現金を受け取ることができます。そのため、この配当金領収証を受け取った段階で『受取配当金』（収益）と『現金』（資産）を計上します。

【例6-2】

S社より配当金として、配当金領収証 300 円を受け取った。

勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金	300	受取配当金	300

社債や国債などの公社債を保有していると、一定期間ごとに利息を受け取ることができます。

利息を受け取った場合には『有価証券利息』（収益）で処理します。

【例6-3】

X社より社債に対する利息 300 円を受け取った。

勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金	300	有価証券利息	300

5. 決算時（時価評価）

売買目的有価証券を保有している場合、決算時に、有価証券の帳簿価額^{※2}を決算時の時価に修正する「評価替え」を行います。

売買目的有価証券の帳簿価額より期末時価が低い（損失が生じている）場合、両者の差額を『有価証券評価損』（費用）として処理し、逆に高い（利益が生じている）場合には、『有価証券評価益』（収益）として処理します。

※2：帳簿価額とは、帳簿に記録されている価額をいいます。例えば、有価証券を購入した時点では取得原価が帳簿価額となりますが、時価評価した時点ではその時点の時価が帳簿価額となります。

【例6-4】

決算にあたり、売買目的で所有するS社株式（帳簿価額700円）を期末時価500円に評価替えした。

勘定科目	金額	勘定科目	金額
有価証券評価損	200	売買目的有価証券	200

【例6-5】

決算にあたり、売買目的で所有するS社株式（帳簿価額700円）を期末時価1,000円に評価替えした。

勘定科目	金額	勘定科目	金額
売買目的有価証券	300	有価証券評価益	300

6. 売買目的有価証券売却時

売買目的で保有している株式や公社債等を売却した場合、通常、購入したときの価格（取得原価）と売却したときの価格（売却価額）に差額が生じます。この差額は、『有価証券売却損』（費用）または『有価証券売却益』（収益）として処理します。

【例6-6】

売買目的で所有する F 社社債（額面金額 1,000 円、額面 100 円あたり 95 円で取得）を額面 100 円につき 94 円で売却し、代金は現金で受け取った。

勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金	940	売買目的有価証券	950
有価証券売却損	10	-	-

公社債の取得原価の計算

公社債は 1 口、2 口・・・と数え、「額面 100 円あたりいくらかで購入したか」という表現で出題されるんだ。

例えば、A 社社債（額面金額 1,000 円）を額面 100 円あたり 95 円で購入したという場合、取得原価は以下のように計算されるよ。

$$1,000 \text{ 円} \div 100 \text{ 円} \times 95 \text{ 円} = 950 \text{ 円}$$

